東京都唯一の公立総合大学として高度な研究力と質の高い教育で東京から世界の未来を拓く人材を育成

東京都立大学は東京都が設置する唯一の総合大学として、多彩な基礎研究や応用研究、大都市の課題研究を推進し、東京都の発展に貢献するとともに地球規模の課題解決に取り組んでいます。「学問の力で、東京から世界の未来を拓く」をビジョンとして、伝統の少人数教育により、「本物の考える力」と「未来に挑戦する力」を身につけ、グローバル社会で活躍する人材を育成しています。

また、2023年度には「東京都立大学研究力強化推進プロジェクト」を策定し、さらなる研究力の向上を目指すとともに、日野キャンパスに大学発のスタートアップやイノベーションの核となる新棟を開設。秋季入試の導入や高大連携の充実など意欲的に改革を進めています。

大橋隆哉（おおはしたかや）学長

1981年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（理学博士）。レスター大学（英国）研究員などを経て92年東京都立大学理学部助教授。2005年首都大学東京教授、17年同大学副学長、21年より現職。

東京都立大学

〒192-0397　東京都八王子市南大沢1-1　東京都立大学アドミッション・センター（入試課）　TEL 042-677-1111㈹　https://www.tmu.ac.jp/

Vision 2030で大学のあるべき将来像描く

2020年4月に首都大学東京から名称変更した東京都立大学。東京都が設置する唯一の総合大学として東京都や東京の人々とのつながりを大切にするとともに、幅広い分野の先端的研究を進めています。そのあるべき将来像を描いたトップビジョンが「TMU Vision 2030～学問の力で、東京から世界の未来を拓く～」で、2030年を目標に、①高度な研究力と質の高い教育の好循環、②学び続ける力を有し、協働して新たな価値を創造できる人材の育成、③多様な人々が集い、学び合う、開かれたキャンパス――を目指しています。

日野キャンパス新棟

このため、「教育」「研究」「社会貢献」「大学運営」の各分野でさまざまな改革に取り組んでいます。例えば教育分野では、高度かつ多彩な教育プログラムにより、誰とでも協働できる能力を身に付け、将来の社会環境・自然環境の変化に対して創造的な貢献ができる人材を育成しています。研究分野では、多彩な基礎研究と社会と協創する応用研究の推進や、東京都が設置する大学ならではの都市文化の発展に資する研究を進め、大学運営では多様性を尊重し、個と組織の能力が最大限に発揮される大学づくりを実現するため、多様な人材が学び合い、協働するキャンパスづくりを行っています。

少人数のゼミと副専攻で「本物の考える力」を養う

東京都立大学の教育で特筆されるのは、開学以来の伝統である「少人数によるゼミナール形式の学び」です。津村博文副学長が、「都立大はほどよい規模の総合大学であるというメリットがあります。学生と教員の距離が近いので、きめ細かな教育により、『本物の考える力』と『未来に挑戦する力』を養っています。また、総合大学として文理融合など分野横断の幅広い教育が可能です」と話すように、教員一人当たりの学生数（ST比）が少ないという特徴を活かした幅広い教育を展開しています。

その一つが、1年次に大学の学修に必要になる基本的な技術・能力を身につける「基礎ゼミナール[1]」です。文理の枠を超えたゼミナールでさまざまな学生と共に学ぶことができます。2年次以降は学部横断で学ぶ総合ゼミナールを開講しています。

また、東京都立大学では多彩な教育プログラムを用意しています。その一つが、主専攻以外の専門分野を学ぶことができる「副専攻コース」です。地域づくりの現場や観光産業で活躍する人材を育成する「観光マネジメント副専攻コース」、人間の健康を総合的に学ぶ「人間健康科学副専攻コース」に加え、2022年度からは、データサイエンスの領域を学ぶ「数理・データサイエンス副専攻コース」を新設しました。さらにグローバル人材育成入試[2]によって入学した学部生を対象とした「国際副専攻コース[2]」では、世界で活躍できるコミュニケーション力と実行力を養います。大学院生が学部生の質問や相談に応じるティーチング・アシスタントなども充実しています。

日野キャンパス

一方、主に1年次に東京都をはじめとする自治体や民間企業で行う「現場体験型インターンシップ」など先駆的なプログラムも用意されています。

南大沢キャンパス

研究力強化推進プロジェクトと日野キャンパスに新棟開設

教員の高い研究水準も東京都立大学の特色です。世界をリードする優れた研究者が多数在籍しており、宇宙理学研究センター、水素エネルギー社会構築推進研究センター、ソーシャルビッグデータ研究センターなど研究センターは13にのぼっています。

例えば、大学院の理学研究科と都市環境科学研究科は、京都大学触媒・電池元素戦略拠点とともに、世界で最速級と評価される、空気中の二酸化炭素の高速回収技術開発に成功しました。気候変動問題解決のため、脱炭素社会の実現が求められており、この研究が現在排出されている二酸化炭素だけでなく、過去に排出された二酸化炭素も削減するビヨンド・ゼロに貢献することが期待されています。また、「子ども・若者貧困研究センター」は、子どもの貧困解消に向けての先駆的研究を実践しています。東京都は日本の貧困の子どもの約9％を抱えており、国内最大の子ども貧困地域。センターでは、都の福祉行政と密接な連携を図りながら、日本における貧困研究のカタリスト（触媒）として機能することを目指しています。

さらに公立の大学として、創造した「知」を東京都や社会に還元するために学内に「産学公連携センター」を設置していますが、2023年10月、日野キャンパスの工学系新棟に、産学公連携スペース「TMU Innovation Hub[3]」を開設します。このスペースを拠点として、東京都立大学の研究成果や研究機器共用センターなどのリソースを活用したスタートアップの創出や支援を実施するとともに、多摩地域の大学・研究機関、自治体、金融機関、企業等の多様な機関と連携協力してイノベーション創出を促進させ、多摩地域の振興に貢献していく方針です。

一方、東京都立大学では2023年度から「東京都立大学研究力強化推進プロジェクト[4]」をスタートさせました。研究環境から資金、時間、人材の観点まであらゆる面で研究を支援し、東京都立大学の教員が研究力を高め、のびのびと特色ある研究を行うことができるようにするためのものです。具体的には「7つの戦略と21の取組」を策定。「研究教育環境の整備」「研究時間の確保」「若手研究者の人材育成」など、研究力の向上に資する戦略を網羅し、大学として取り組んでいくことを宣言しています。

秋季入学試験の導入と多彩な高大連携事業の実施

東京都立大学では、2024年度から理学部生命科学科で、秋に入学し英語による授業のみで学位が取得できる仕組みを導入します。この秋入学制度では英語で受験することができる秋季入学試験を実施するのも特徴で、出願時期は2024年4月、選抜時期は6月を予定しています。津村副学長は「留学生や帰国子女、国内外のインターナショナル・スクールなどの出身者を対象としています。世界中から学生達が集い、共に学び合う教育環境を整備し、大学の国際化を推進していきます」と話します。

さらに、2025年4月にシステムデザイン学部において情報科学科と電子情報システム工学科の学科再編を行うため、新たな入試制度を設ける予定です。

高大連携にも力を入れており、アドミッション・センター高大連携室では、研究や教育などのさまざまな情報を提供するだけではなく、教職員や大学院生が、高校生や受験生の相談に対応したり、出張講義などを実施し、大学進学に向けての心構え、将来の職業選択、高校での勉強法などをサポートしています。

このほか、社会人などを対象とした高度で専門的な学修の場である「プレミアム・カレッジ」やオープンユニバーシティも開講しています。最後に、東京都立大学を目指す受験生に、大橋隆哉学長の言葉を紹介します。「教職員と学生や学生同士の距離が近いという利点を活かし、丁寧な教育と研究指導を行うことが、皆さんのしなやかな知性を育むことにつながると信じています。本学の知が集結したキャンパスは、東京都という世界都市にありながら、豊かな自然環境に恵まれています。最先端の研究に触れ、それに取り組む世界の人々との出会いを力にして、ぜひ未来へ羽ばたいてください」。

荒川キャンパス

（1）基礎ゼミナール

1年次の必修科目。自己の表現力やプレゼンテーション能力を高めるために、担当教員の設定したテーマに基づいて学ぶ演習形式の少人数制（24人程度）の授業。調査、研究、発表、討論を重ね、問題解決に必要な技法を体験的に習得するとともに、学部を超えた学生同士の交流と豊かな人間関係の形成を促す。

（2）グローバル人材育成入試と国際副専攻コース

国際社会の第一線で活躍できるグローバルリーダーの育成を目的に、人文社会学部、経済経営学部、都市環境学部、システムデザイン学部で実施。TOEFL iBT、実用英語技能検定、GTEC、TEAP、ケンブリッジ英語検定、TOEIC、IELTSなどで一定以上のスコアを有することが出願の要件となっている。この入試で入学した学生は、主専攻科目の履修と並行して、海外留学（1学期間、または1年）が必修のカリキュラム「国際副専攻コース」を履修し、確かなコミュニケーション力や多様な文化に適応可能な実行力を身につける。

（3）産学公連携スペース「TMU Innovation Hub」

インキュベーションルームとしてウェットラボ仕様7室とオフィス仕様3室の個室型の施設を整備。インキュベーションマネージャーによるメンタリング、起業に向けた専門家によるサポートをはじめ、入居者を対象とした各種支援策を展開。オープンイノベーションスペースは、200インチの昇降型スクリーンを設置し、新たなイノベーション創出の場として活用する。また、各種セミナーや小規模なイベントを開催するための収容定員20名のセミナールームなども設置している。

（4）東京都立大学研究力強化推進プロジェクト

「研究教育環境の整備」「外部資金獲得の支援」「研究時間の確保」「優秀な研究者の採用」「優秀な研究者の支援」「若手研究者の人材育成」「産学公連携の促進」の7つの戦略の下、21の取り組みを掲げる。こうした取り組みによってと東京都立大学の教員が自身の研究力と教育の質を向上させることで、新たな人材が育ち社会へ貢献する好循環を生み出すことを目指す。